

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

多可町長

市町村名 (市町村コード)	兵庫県多可郡多可町 (283657)	
地域名 (地域内農業集落名)	八千代区 (下三原集落)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年4月26日 (第3回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区の耕作者は26名であり、他集落から2名(うち1名は認定農業者)が耕作にきている。そのうち50代以下は3名である。遊休農地の割合は全体の22%であるが、中山間地域であるため、山手の側の傾斜地から遊休農地化が進行している現状である。今後、高齢化が進んで遊休農地の更なる増加が懸念されることが課題となっている。

認定農業者は他集落からの耕作者も含めて2名おり、農会の主な作物は水稲(うるち・加工用米・酒造好適米)で、休耕田活用として、ラベンダー団体も活動している。井堰の老朽化も問題であり円滑な水利を得るのに人手を加えなければいけないことが課題となっている。離農者がますます増えていく中において、農地の放棄田化の阻止、そしていかに新規就農者を確保し育成するかを地域住民の考えも交えて、よく検討していく必要がある。

【基礎データ】

- ・農家軒数 26軒 うち認定農業者1名
- ・主な作物 水稲(うるち・加工用米・酒造好適米)、ラベンダー、露地野菜

(2) 地域における農業の将来の在り方

現在行っている獣害対策の取り組みである集落全周の金網柵、それに伴う地域住民たちによる見回りローテーション体制を継続して行っていく農作業の効率化・安定化を図る。JA委託の堆肥散布による有機農業、土づくりへの取り組みを継続的に行い良質米の生産向上を図る。また側条施肥装置を活用した肥料の効率的なコストダウンへの取り組みを継続していく。更に農作業の省力化を図るため、ラジコン草刈機等によるスマート農業の導入を図る。

地域住民への声掛けも含め、畑の野菜の栽培を継続して奨励していき、若年層にも積極的に声掛けをしていき、栽培ノウハウの習得に繋がるような環境を整えていく。農耕への関心、就農意識が増すよう努力していく。

また放棄田防止の観点から中間管理機構・農地バンクの活用も視野に入れて、地権者の意向をよく聞きながら段階的に担い手への農地の集積・集約化が進むよう検討していく必要がある。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	22.4 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	22.4 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	0 ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地及びその周辺の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
・農地中間管理機構を活用して、認定農業者や担い手への農地集約を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
・新規の貸借は農地中間管理機構に貸付、担い手の経営意向を斟酌し段階的に集約化を進める。
(3)基盤整備事業への取組方針
・多面的機能支払交付金の活用により、用水路の整備を引き続き行う。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
・町やJAと連携し、地域内外からの多様な経営体を募集し集落内の若年層にも働きかけ、後継者育成を図る。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針
・JA委託による植付・刈取りのオペレーター作業を引き続き行う。また、育苗センターの利用やドローン防除、堆肥散布事業の活用も引き続き行う。

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】
①多面的機能支払交付金を活用し、獣害防止金網柵の点検と早期補修を引き続き行っていく。
②水稻を中心に環境保全型農業の取り組みを継続する。
③ドローン防除・ラジコン草刈機などによるスマート農業を図る。
⑦多面的機能支払交付金を活用し、用水路の整備を引き続き行っていく。